



特別
子 12
3643
41



故
 梅若誠太郎氏
 昭和四年青葉日
 梅若重久氏
 寄贈
 新田梅田圖書印

一 唐船下流のくかり今思へくふくはしき
 表よの持てさういさこれ舞

一 乃明寺上流のく曲舞よのり舞ははく
 いふも舞ふは舞

一 馳田舞の位さうりからおこや舞はり

一 三輪曲舞よの上テさうり舞はるさうり舞田より
 早舞

一 二人舞葉摘の女也思ふなまやまおひりよまかく
 せ可汎曲舞はのよさうりから舞はははたま

へ目とくねる舞あり

一 以時方へ舞くまつた舞へ一 舞はまつよりせはく
可汎皇帝の切腹の位あり

一 殺せなき位始はるふも面白き口持つてく拍子
をせしへ

一 杜若曲舞しつて曲舞へるよりおとせし作し

一 こふ舞の心いふと舞く下後きりまつる位

一 拍子曲舞あるもく舞く下後きり舞あり位

一 せし位帯位よりりあしとく舞よあまつる
さきりるふとくくうさへ

一 女子のきり小舞よりおとせきりあは甲より

一 乃成寺前はまつる女位に礼拍子と一口拍子と
へ被舞とくや一なるは拍子と入なり

一 あれた位天鼓よりおとせきり拍子多端

一 友長之位おとせきりおとせきり拍子
くやおとせきりおとせきり

一 源氏伝説曲舞上におとせきりおとせきり
乃曲舞のつくりおとせきり

一 女もく位井筒の心いふと舞くはきり舞同前
一 室儻りるくく舞ふくくは口のつかり

- 一 摩きい曲舞芭蕉のりき舞おれしく
- 一 籠を被るにさおれおる君は遊てやふおる
 遠く中可汎
- 一 流き曲舞紅葉狩りわくちくさうりはわさつこ
 は舞も田前こ
- 一 葛城前にはつうにゆき文のや持するはわ
 きいかり
- 一 花月こくは前あふしく舞も福もきり
 位もふ舞て下汎
- 一 鳴不動前めつあきつふふりは拍子多はじ

- 一 移位教生もたまり初お静こ
- 一 玉音起結文の内位はくくうくうさふ
 被もたまわつふはくく地もあき也こ
- 一 丸福前う流く遠くまうりもくもさうり
 せふもまよるもさくはら大お祓祇
 とまふりもじとあく流く思もあひのさ
 またふくまおらつふふさくさくさく
 うさうさくさく流もさ
- 一 宗曲舞まつたくと舞のあつさうりも
 とらうりもくまも

- 一 聖徳太子位羽衣しんかろきつ森のゆめ
- 一 新改言抄大事 曲舞いふえうの位よら
もてをたははくうからいふ
- 一 くらの手前いふもくや遠くうてしあ
しれたやふらうの早く十派は舞部
- 一 横運曲舞あるみえつふ来也の曲舞よ
がくや切れ早くうらな
- 一 得く前は出つふらう十派きり 新舞
- 一 志位のつら体之前うらうなははまの流
りんごうわく上流よあよきうくまきり

- 一 乃ゆきけりりりりりりり
- 一 志位いけふもくくまき切れ舞よら
ぬまうのり
- 一 花形つん位もせよあき切はるきこ
- 一 ねむ曲舞いしはくうらか舞ははの舞共
振の舞初方抄新舞うらうがつふ派
- 一 志位の手曲舞大事は流切中のるき位
- 一 張良おけいふも新編のら持うきん持二
間いふもかろく新おくらんやじり水首と
くうせてらりるつるま流

一 舟橋の宗も宗の福もあつたなり位一形入つてもあつた
はまゝいなり

一 娘を宗はとくしあつたなり位一形入つてもあつた
うゝゝゝ

一 七き後より清きよりかゝるやも前は因り
一 神政前よりあつたなり位一形入つてもあつた
あつたなり位

一 大社曲舞作はよりが用一なる位一形入つてもあつた
一 小志の神もあつたなり位一形入つてもあつた
あつたなり位

一 あつたの位もあつたなり位一形入つてもあつた
中の位

一 大原御筆の位一形入つてもあつた
一 昔も神前にはあつたなり位一形入つてもあつた
あつたなり位

一 くせの位もあつたなり位一形入つてもあつた
一 呉紙を巻くなり位一形入つてもあつた
あつたなり位

一 真澄物持よりあつたなり位一形入つてもあつた
一 出れ用一はあつたなり位一形入つてもあつた
あつたなり位

かき争ひ満ち満ちた都の流し

一 八時の位中まにわらわはきくらげやまかり
いふ山と走らふうさぎは是は美感らうとや
うたを舞ふ

一 籠位矢的の程に存しはよとよまよら

けりるちやう厚やしくやまふいふとや
後へ又うさぎとねじりてせうまヨリ
又くやく満ちり

一 野々文舞松風りおわぐまうらうまじび地
ねの舞いあかや舞上へ

一 各派舞のいふとまうくせ満舞へまふのら
おぼく文や也

一 留川舟とあそびあはれやまふまうらう満ち
やまへしおひふと弱くせとあかへし舞のら
かよふらうとまうら 江に舟をりまふ
舟中ノ舞

一 井筒け位いそげはらりおるるらうは二間
おぼれく先と刀分り井筒うばはるる持へ

一 夕歌井舟の位舞のうらお舞舞へ
物歌の魚のまきりらうらや舞を流存れら
り小場くくお舞

よふくじへしかして就まふせよなりとつて
たふしかしてういおしんせよとておれよ
南麻りくちを麻なり

- 一 藤原の回答始なりとて深く痛むいふは
おれはけしむるまきや麻なりとてしりた
一 志面とのむすや言ふらるふしとて
一 大會と物つら先程とつらつらとて
おらるひとて言ふたうちめいふかば
一 鞍馬天狗相所供のて物に難くはとて
あふくおれはけしむるまきや麻なりとて

ほいせよなりがくしとて

- 一 是言くしてまた物つらとて位は曲麻なり
一 とうと曲麻なりとておれはけしむるまき
一 是言の心算とて言ふらるふしとて
せよとて言ふらるふしとて深く拍子多し
一 船舟とておれはけしむるまきとて
きと拍子多しとておれはけしむるまき
一 持曲麻なりとておれはけしむるまき
乃位なりとておれはけしむるまき
おれはけしむるまきとておれはけしむるまき

きこおひて下海面白のこくわく言あし
まのふうくまの舞の目まきまらふくまの舞
さり静中観

一 信地らふあし持る志あらくもあはれとては
なて一門いきと失ひてあらしうつふ地あ

一 兼平位志いふくわ静よこま曲舞あ
やうくふくたのよまら困は信

一 志度りつふも静も位に地れたつた六法を心恵

一 志度りつふも静も位に地れたつた六法を心恵
ちやうとらおひふも困は信

一 景清いきりえひく程の位

一 ねく坊一舞うらあけつはくくの種くをう海
下り松一目とくあさつ持へ一是二回あ遅

一 名くねつあまは海古乃とさあいくふと
あつて後意うらやあれよりあはゆ立

一 あり二あけいんがかり

一 志野古中雨あはのりくみわさ言あはさ
流に船歌あやうてうらあまも志かきてあは
流へ牛釣車よせよとああぬやうあは

一 産後少々の明緒をさかしくあかしく
 一 産後少々の下すそをほく多路なりとあかしく
 一 戸を二回芝をそそき（産後）もやとらふ
 一 月四せし細く思ふよめ
 一 産後舞よりさうれ油とあかしく
 一 そろりやとけらふて舞うそつと事お
 一 ほくそくかかしくさかしくおめて舞
 一 拍子十と三つ拍へそれを被ふて産
 一 舞とみわたり拍子ふび（けし拍をさき）
 一 産後少く解らるし（さうは産後とてい）

一 さうのけし拍をさうれへ舞目かたきとあ
 一 ち拍をさうておつきと下す
 一 我（さう）さき人舞（さう）のさうとた
 一 産後を産くとた思ふ（さう）
 一 礼酒さうて被あ（さう）上（さう）さうと
 一 一旦二回芝をそそき（産後）もやとらふ
 一 何拍もさうとら舞（さう）
 一 産後をさうとら産後人舞（さう）と細
 一 産中（さう）也
 一 不産（さう）もさうとら産後（さう）

一 かしらきく人の静大事なる大まきよゆんでりての足
 かしらあつゝ一扇もゆふよとらう防たた腰のを急
 屋うせえ茶三開り先とんをあし物さつち
 ひやゝ一踏と大吏のふちを敷りよめ
 一 後ならん人よ敷り大事明り静かほの
 其中あてうゝいせり作り

謡ノ大事

一 一寸の行ひしと法りうはる
 一 曲舞の前のうゝいせり静かつて後
 一 詠物詠のうゝいせり静かつて後

一 曲舞のあゝいせり静かつて上いなり拍子
 一 ひのゝ後物ゝいせり静かつて拍子のはねがひ
 一 一後いゝいせり
 一 一いせりいせり後出いせりいせりいせり後物
 一 以才のあゝいせり静かつて
 一 おいせりいせりいせりいせりいせりいせり
 一 柳ははせえおし胸りいせりいせりいせり
 一 切一いせり曲舞いせりいせりいせりいせり
 一 床は我胸のあゝいせりいせりいせりいせり
 一 和奇いせりいせりいせり

一 あらたにこい橋のりかるといふる乃中程之
とらるる森時いふる先と日さくふれをいふ
一 此のゆゑにまゝとらるるの男ふも厨と
ふれをいふる

一 天狗いふ間先とて森と拍子多々踏へたふ
踏舞うとて人の耳へまゝ入中程おど
一 鬼はにら拍子とて森と拍子多々踏へたふ
之間先とて森と拍子多々踏へたふ
石は少多のり

一 どの拍子膝影うとらるるこいこいこい拍子あ

海をむらあていふらうかむしつち拍子
ち拍子まきしむとけを是乃うとていふ
てはけと上踏一のま拍子是の海う
く踏はぬまきと上踏くくかは是と
かく踏一か拍子とてかえいのか
一踏ふ是とかえいこくく下踏ふ是
拍子是の浦といふけ前はくくこいこ
又ぬき拍子は是乃浦とてはしりあき
しりまきいを入つくと踏大拍子ま
とて下踏ち拍子つとて下

志をい入中云々

一 又此の麻痺から肘た、口方おれくくス(こも
心は是とつうく踏ひくま麻痺)

一 麻痺と云はく心附たて麻痺をい割たらく
指上指下て云りけつづつヨリそ寸上は云は
しし一 麻痺と云はくゆいて妻あるは年と
つりも寸上、上ケ帯志おてよりゆい又た麻痺
ゆい一 尺もゆて、と云をむらとわいし
ヨリへけつ下思帯一(むらと云はくたはゆい
まぬりくま可玉

一 引是ありあの中入は先りんは入は入くけは
魚りゆち入くまゆと下、自直くか
ゆいしり、と終く一 麻痺の指くゆい
あてりく、又た、こは、麻痺のらくもす
福先は指りしるああけらつるは上と
一 右、麻痺のあは先、あつり、地帯上は、
指上大指と初、こ指あてあはく、
上ケ麻痺のゆい、指く上ケまひたり、
肩まき、可玉

一 又、此の時たらく、二商、麻痺、可玉、可玉、

下と見し一うらわつたは麻をなすた
糸をうけやり是を踏くらうけおりの
一右袖は麻麻糸をくらこのく一鶴女
舞はれ時くらうけは踏車くら
一玉はねき足あつは是くら一足くら
鶴女舞はねきあ一吉

面方の大

一世面とおつてはさうとさうとさうと目
たかろわれは足なすといはれさうとさうと又あ
うれはは面方のさうとさうと目と目とさうと

さうと一耐る面の下にさうとさうといさうと
け左目と目といははは耐る面の
さうとさうと天狗はれさうとさうと

脇之大

一僧編は中中先とさうと一大は編は面
先とさうと一男は編は面
一山伏もなま山伏のさうと一あつさうといはれ
さうとさうとさうとさうとさうとさうと
あけ出
一おまおつさうとさうとさうとさうと

こいこい母にあらはすと云ふ

度為結くゆしてノキノキト

一 足下より杖をさし下へて度為結くゆしてノキノキト

一 杖をさし下へて度為結くゆしてノキノキト

一 杖をさし下へて度為結くゆしてノキノキト

一 杖をさし下へて度為結くゆしてノキノキト

元々大いゆ

一 杖をさし下へて度為結くゆしてノキノキト

一 杖をさし下へて度為結くゆしてノキノキト

一 杖をさし下へて度為結くゆしてノキノキト

一 脇大指の末節はあふまき下りてを流し

一 名系あふまき上りてを流しとみりゆりお新

言流は夫ゆり一して府におおるあふまき

下りてを流し一しておあふまきとみりゆり

いりてを流し一しておあふまきとみりゆり

地を流しおあふまきとみりゆり

位一ゆりゆり一しておあふまきとみりゆり

と右とも節をなましとみりゆり

ありた大まきとみりゆり

の越なを不二とみりゆり

右大事九十九不收今傳更作
一切不二無他偽名之

之龜之

三月廿日

觀世小決之印

之頼

狗井新之印
系



觀世次郎之頼

